

大使館便り

第184号 平成30年7月4日
在ポルトガル日本国大使館

1. 新美大使からのご挨拶

サッカー、ワールドカップ・ロシア大会でポルトガル、日本どちらの国も大いに盛り上がりましたね。この御挨拶は、ポルトガルがベスト16で敗退し、日本がベスト8入りを懸けたベルギー戦を控えている時点で書いておりますが、この一月ほど、ポルトガル各界の方々との話題はサッカーでもちきりで、改めてサッカーは「世界の共通語」と感じた次第です。

サッカーと言えば、昨年夏から当国1部リーグのポルティモネンセで中島翔哉選手がプレーされています。5月、リスボンで行われた同チームの試合に私も館員同志と観戦（応援）に行きましたが、中島選手、1得点、1アシストの大活躍でした。

話は飛びますが、私は若い頃英国で語学研修していた際、同国で開催された社交ダンス、及びオートバイ・トライアル競技の国際大会の様を各々TVの中継で目にする機会がありました。そして、日本から遠く離れ、失礼ながら本国ではあまり報道されることもないであろう大会の場で、日本の選手が日本代表としての誇りを持ち、凜とした姿で競技する様子に、いたく胸が熱くなった覚えがあります。

立場、状況は異なりますが、中島選手の活躍ぶりにも、同胞として大変誇らしい思いが致しました。中島選手の一層の飛躍を祈ると共に、ポルトガルで第2、第3の中島選手が活躍し、Jリーグでポルトガル人選手が活躍する日が来ることを期待しています。

2. 政治・経済関係

(1) コスタ首相が次期スペイン首相に祝意伝達

6月1日、コスタ首相はツイッターを通じて、スペインの次期首相となるサンチェス社会労働党書記長に祝意を表明し、両国関係は最良であり、こうした関係が継続することを確信している旨を伝えました。

(2) コスタ首相がカーボヴェルデ首相と会談

6月4日、コスタ首相はポルトガルを訪問したジョゼ・ユリス・ドゥ・ピナ・コレイア・エ・シルバ・カーボヴェルデ首相と会談を行いました。7月、ポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）首脳会合がカーボヴェルデで開催される予定であり、両首脳は同会合の主な議題やCPLP諸国間の協力等について意見交換を行いました。

(3) コスタ首相がルーマニア首相と会談

6月6日、コスタ首相はポルトガル訪問したヴィオリカ・ダンチラ・ルーマニア首相と会談しました。ルーマニアは2019年上半期にEU理事会議長国を務める予定であり、両首相はEUが直面している各種課題（英国のEU離脱交渉、多年度財政枠組み、ユーロ圏改革、及び移民問題等）について意見交換しました。また、二国間で進められている貿易・投資・保健・科学等の分野における協力について意見交換しました。

(4) 「ポルトガルの日」の式典をアソーレス及び米国で開催

6月9日～10日、ソウザ大統領とコスタ首相は、「ポルトガルの日」（国祭日：16世紀の詩人カモンイスの命日）の記念式典をアソーレス自治州のポンタデルガーダで開催しました。その後、大統領と首相は米国に移動し、10日夕方にボストン市でも式典を開催しました。約150万人の在米ポルトガル系住民のうち、その最大規模のコミュニティがボストンにあります。また同日夜、大統領と首相はロードアイランド州のプロビデンスで「水と炎のフェスティバル」に参加して式典を祝いました。11日午前、ソウザ大統領はマサチューセッツ州議会で「ポルトガルの遺産記念日」の公式会議に出席、他方、コスタ首相は11日にマサチューセッツ工科大学を訪問した後、12日にはカリフォルニア州を訪問して、シスコ本社、スタンフォード大学、13日にはグーグル本社を訪問、14日にはブラウン・カリフォルニア州知事と会談しました。また同首相は、15日にはニュージャージー州を訪問、マーフィー知事と会談したほか、ニューアーク市のポルトガル人コミュニティと触れあいました。「ポルトガルの日」の式典の外国開催は一昨年のパリ、昨年のブラジル（サンパウロ及びリオ・デ・ジャネイロ）に続いて3回目でした。今回の米国での式典は現地ポルトガル人コミュニティによる「米国ポルトガル月間」と重なり、ポルトガルと米国の二国間関係を深めるための行事が12の州及び60の市で開かれました。

(5) 2017年度の対ポルトガル直接投資の増加

6月19日、アーンスト・アンド・ヤング社が「ポルトガルの魅力度2017」報告書を公表しました。同報告書によると、2017年度の対ポルトガルの新規の直接投資プロジェクトは95件で、前年の59件より61%増加し、7657人の新たな雇用が生み出されました。分野別では、工業、研究開発、及び営業とマーケティングが上位を占めました。また、地域別では、シスコ、シーメンス、グーグル等の進出が決まったリスボン市周辺が最も魅力的だとされている一方で、ユーロネクスト、ナティクシス、ボッシュ、ヴェスタス、ザランド等の進出が決まったポルト市は、スタートアップ企業にとって、欧州の中で最も友好的な街となっています。同報告書の結果について、カブラル経済相は、「直接投資プロジェクトが約60%増加したことは、ポルトガルが現在、外国投資家にとって非常に魅力的で、高い競争力を持っていることを示している」と述べました。

(6) ソウザ大統領がプーチン大統領と会談

6月20日、2018 FIFAワールドカップロシア大会のポルトガル代表の試合を観戦するためにロシアを訪問したソウザ大統領は、試合前にモスクワでプーチン大統領と会談しました。

プーチン大統領は、「ポルトガル代表はヨーロッパの中で最も優れているチームの一つで、ロシアでもたくさんのサポーターがいる」と述べました。ソウザ大統領は同大会でポルトガルとロシアが決勝トーナメントで対戦する可能性について触れ、「試合の結果がどうであれ、我々の外交関係に影響を及ぼさないことを願っている」と述べました。これに対し、プーチン大統領は「我々の関係にダメージはないであろう」と応え、サッカーが世界の国と人々を結びつける魅力を持っていると述べました。

(7) リスボン市が「2020年緑の欧州都市賞」を受賞

6月21日、リスボン市は欧州委員会の「2020年緑の欧州都市賞（European Green Capital Award for 2020）」を受賞しました。欧州委員会によれば、リスボン市の持続的土地利用、持続的都市交通機関、環境に配慮した成長とイノベーション、気候変動対策、及び廃棄物対策における取り組みが評価されたものです。

(8) サントス・シルヴァ外相が訪米

6月21日～25日、サントス・シルヴァ外相が米国を公式訪問しました。21日午前にはポンペオ米国務長官、午後にはボルトン米大統領補佐官と会談し、22日及び23日には「発展のためのポルトガル米財団（FLAD）」主催の開会式に出席し、25日には液化天然ガスに関する会合に参加しました。同外相はインタビューに答え、ポルトガル及びEU諸国は「大西洋の絆の重要性を認識すべきであり、この絆を弱めるべきではない。北米と欧州の民主主義国家間の同盟は、気候変動、貿易等の重要な分野での意見を異にする部分はあるが、国際秩序のためにきわめて重要である」と述べました。

(9) ソウザ大統領がトランプ大統領と会談

6月27日、ソウザ大統領はトランプ米大統領とホワイトハウスで会談しました。ソウザ大統領は、会談後、記者団に対し、「個人的にはじめから最後まで暖かい会談であったという印象である。この暖かさは両国の約240年間の歴史的な友好関係に加え、米国在住の約150万人のポルトガル人の存在も大きい」等述べました。また、二国間関係については、防衛及びエネルギーについて意見交換した旨述べると共に、「ポルトガルは欧州の一員であるのみならず、米国とも歴史的な同盟関係を持っていることから、ポルトガルが、他の欧州諸国にはできないような、米国と欧州との架け橋としての役割を果たせる」旨述べました。

(10) コスタ首相が欧州理事会に出席

6月28日、コスタ首相はブリュッセルで開催された欧州理事会（28日～29日）に出席しました。コスタ首相は会議後、「この首脳会合は非常に難しかった。合意文書の見かけ上のコンセンサスは、現在、価値観及び移民問題に関して欧州連合を脅かしている深い分裂を偽装できない」と述べました。主な争点となった移民問題に関して、コスタ首相は「ポルトガルは筋の通った、絶え間ない責任のある政策を実施している」と述べ、「我々はアフリカの開発支援を積極的に行っている国の1つであり、本日アフリカのためのEU緊急信託基金に対する拠出額を180万ユーロ

ロから500万ユーロに引き上げた」と発表しました。

(11) 国際移住機関 (IOM) にヴィトリノ氏が選出

6月29日、国際移住機関 (IOM) 事務総長選挙に立候補していた、グテーレス政権時代の国防大臣であったアントニオ・ヴィトリノ氏 (元欧州委員 (司法・内務担当)) 氏が、ジュネーブで開催されたIOM臨時総会において次期事務局長に選出されました。

(12) NEDOスマートコミュニティ実証事業運転開始式

6月29日、新美大使はリスボン市庁舎で開催された、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構) スマートコミュニティ実証事業運転開始式に参加し、メディーナ・リスボン市長、表NEDO理事、ポンセ・デ・レアオンLNEG (ポルトガル国立エネルギー地質研究所) 所長、ホーレルベッケ・ダイキンヨーロッパ会長等と共に、本件事業の運転開始を祝いました。

本事業は、NEDOからの委託でダイキン工業株式会社が、リスボン市及びLNEGの協力により推進されているプロジェクトであり、リスボン市庁舎などリスボン市内4カ所の施設に設置したデマンドレスポンス機能および蓄冷機能付きのビル用マルチエアコンを用いて、当地の電力小売事業者やバーチャルパワープラント (VPP) 事業者と協業し、電力の需給状況に応じて空調の電力消費を自動で制御する実証を行うものです。プロジェクトは2019年末まで続く予定です。

3. 広報・文化関係

(報告)

●第8回「日本祭り」 (Festa do Japão) の開催

6月16日 (土)、市内パルク・ダス・ナソンイスにおいて、当館、リスボン市、EGEAC、ポルトガル日本商工会議所、ポルトガル日本友好協会の共催により、リスボン祭の一環として第8回「日本祭り」が開催されました。同会場では3回目の開催となる今回の「日本祭り」は、金刺敬太 with TAIKO ENISHI による和太鼓演奏、永田充書家による墨絵・書道パフォーマンス、高橋雅芳と César Viana 両名による箏・三味線と尺八の共演、武道デモンストレーション、生け花、折り紙、俳句、風呂敷のワークショップといった様々な日本文化をテーマとしたプログラムで来場の皆様にお楽しみいただきました。そして祭りの最後は、日本の伝統行事である灯籠流しや炭坑節の盆踊りで会場は大いに盛り上がり、リスボン市最大級の日本関連イベント「日本祭り」は今年も無事終了いたしました。

開催にあたり協力頂いた各機関・出展団・ボランティアの方々・来場者の皆様に対し、共催団体を代表して、心よりお礼を申し上げます。



● 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、cultural@lb.mofa.go.jp までご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) ハーグ条約についてご存じですか？

一方の親の同意なく、お子さんが国境を越えて海外に移動した場合、一定の要件を満たせばハーグ条約が適用されることとなります。その場合、お子さんは、原則、元いた国に戻されることとなります。詳しくは外務省のホームページをご参照ください。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

お子さんの海外への移動、ハーグ条約についてご不明な点がありましたら、当館または以下までご連絡ください。

・外務省ハーグ条約室：

TEL: +81-(0)3-5501-8466 Email: hagueconventionjapan@mofa.go.jp

(2) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、[ポルトガル国内での転居](#)、[日本への帰国](#)、[他国への転出等](#)、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

(3) 「たびレジ」登録

在留邦人の皆様が、ポルトガル以外に旅行される場合には「たびレジ」の登録をお願いします。「たびレジ」に登録しますと、現地の大使館からの安全情報をスマートフォン等で受信することが出来ます。登録はこちら。<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

(4) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975 E-mail：consular@lb.mofa.go.jp

(了)